

徳山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	技術者の倫理	
科目基礎情報							
科目番号	0064		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	環境建設工学専攻		対象学年		専2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	齊藤了文, 坂下浩司編『はじめての工学倫理』第三版 (昭和堂) ISBN 9784812213490 および プリントを配布						
担当教員	高橋 祥吾						
到達目標							
技術者の倫理の基本的理解と、関連する問題に対処する方法について、理解し考え出せるようになる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		倫理学に関する知識を分析・応用して、自分の意見を論証することができる		倫理学に関する基本的な理解の元に、自分自身の考えを論証して示すことができる		倫理学に関する基本的な知識が身に付いていない、あるいは、十分なかたちで自分の意見を論証できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		技術者が直面する様々な問題を考察し、問題解決のための方法を考えていく。また、技術者に求められている規範・責務が、どうして必要とされるのかも理解できることを目指す。					
授業の進め方・方法		授業は事例の考察と、それらの事例に対する倫理学的な解説に分かれる。事例の考察のときには受講者に積極的な意見を求める。また、事例について教科書による予めの予習を要求する。その内容を確実に身につけるため、予習復習が必要である。					
注意点		【関連科目】倫理、哲学、技術者倫理（本科）					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	技術者の倫理の概要			授業の進め方と、技術者の倫理の必要性と概要	
		2週	倫理の基礎			倫理学の基礎概念を確認する	
		3週	技術者の責務			技術者が専門職としての位置づけと倫理の関係	
		4週	製造物責任			PL法を読み、製造物責任に関係する事例の考察をおこなう	
		5週	動物実験			環境への配慮の一例として、動物と人間の関係を考えるために、動物実験について考察する	
		6週	環境問題			動物の倫理も含めた環境に関する問題と倫理を概観する	
		7週	環境問題2			技術者が考慮すべき環境問題と倫理について考察する	
		8週	内部告発と公益通報者保護			内部告発が必要とされる事例を考察する	
	4thQ	9週	技術者と企業			前回の事例を受けて技術者と企業の関係を考える	
		10週	技術者と情報			プライバシー権と同意の問題をはじめとして技術者と情報を考える	
		11週	技術者の権利と責任			技術者に関わる法の観点から、権利と責任を考える	
		12週	研究倫理			研究不正のひとつである剽窃について、実際のレポート課題を教材として活用して理解する	
		13週	社会における技術者			これまでの授業を踏まえ技術者に求められる倫理を整理しまとめていく	
		14週	倫理綱領			倫理綱領の必要性と意義を考える	
		15週	期末試験			上記の内容から出題する	
		16週	まとめ			これまでのまとめを行う	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。	4		
				説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	4		
				技術者を目指す者として、社会での行動規範としての技術者倫理を理解し、問題への適切な対応力（どのように問題を捉え、考え、行動するか）を身に付けて、課題解決のプロセスを実践できる。	4		
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	4		
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	4		
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	4		
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	4		
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	4		
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	4		

				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	4	
				技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	4	
				社会性、社会的責任、コンプライアンスが強く求められている時代の変化の中で、技術者として信用失墜の禁止と公益の確保が考慮することができる。	4	
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	4	
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	4	

評価割合

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0